

# 新型コロナウイルス感染症・緊急事態宣言の影響に対するアンケート：結果報告

一般社団法人 日本輸入車整備推進協会(JISPA) 会員各位

いつもお世話になっております。この度は新型コロナウイルス感染症と非常事態宣言に対する対策についてアンケートを実施致しました。アンケートのメール発送が4月14日の正午にも関わらず当日中に11通の回答を得ました。この問題への関心の高さがうかがえます。最終的に21会員の回答を得ました。

アンケートを送付した時点での非常事態宣言は東京、神奈川、千葉、埼玉、大阪、兵庫、福岡の7都道府県であったが、16日夜から全国に拡大されています。

## <概況>

### (1)営業時間の短縮

営業時間を変更した回答者は全体の14%で、30分から1時間程度の短縮である。残業を減らして定時に閉店できるようにしている。

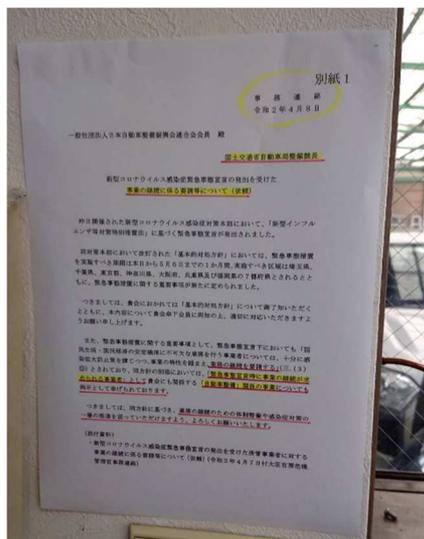
### (2)営業日の変更

営業日を変更したのも全体の14%で、通常は隔週土曜日を休日としているのを、土曜休日を1日追加する等の措置を取った。また、ゴールデン・ウイークの中日を休日にして連続して休むようにしている。

## ○自動車整備工場は「緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者」

4月8日に国土交通省自動車局整備課長より、日整連を通して全国の自動車整備工場宛に「事業の継続に係わる要請等について」と題する依頼が事務連絡として出ている(添付資料参照)。

これによると自動車整備業は「国民の安定的な生活の確保に係わる事業者」として「緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者」とされており「十分に感染拡大防止策を講じつつ、事業の特性を踏まえ、業務の継続」が要請されている。以上のことから大幅な営業時間の短縮、営業日の変更が少ないのが当然であると言える。ポイントは「十分に感染対策防止策を講じて継続する」ことにある。



国土交通省からの事業継続依頼を工場内に掲示して従業員の士気向上を図る(玉野自動車)

### (3) お客様車両の入庫状況

お客様車両の入庫は減ったが19%、増えたが5%、変化なしが76%である。

減った会員のコメントを見ると、車両販売は大幅に減少しているが「必要な整備(修理)については変化が無い」との回答である。

現実に消費者が外出を控える影響でディーラーでの車両販売は大きく減少している。整備工場での車両販売も影響を受けている。なお、中古車販売も同様に不振であり、またコロナウイルス感染は海外でも猛威を振るっており、中古車輸出も大幅減となっている。

自動車整備の領域では钣金・塗装が減少しているとの回答が複数あった。

#### <一般入庫は増加傾向>

会員会社でも電車通勤の社員を自動車通勤に変更した例が多いが、これは社会全体の傾向であり、社員に社用車を貸与して自動車通勤を命じたり、会社で駐車場を確保したり、コインパーキングの料金を会社が補助したりと電車通勤による感染回避に努めている企業が多い。

その結果、自家用車の場合、休日にしか車に乗らないサンデードライバーが、毎日、車両を利用することにより車両の不具合・故障が発生している。もともと部品の劣化はあったのだが、走行距離が増えることにより表面化したということである。路上での故障車両を牽引するレッカー・サービスも、通常では社用車のニーズが多かったが、新型コロナ感染で店舗等の営業自粛が要請される中で、社用車の故障(牽引需要)は減り、逆に一般ユーザーの運転する車両の故障が増えている。

#### <車検入庫は後方に伸びる>

今回、緊急事態宣言発令地区の車検証の有効期間が6月まで延期される措置が発動されて、車検入庫が遅れる傾向にあり、その影響が出始めたとする会員の指摘があった。

### (4) 売上への影響

大いに影響を受けるが10%、「多少影響を受ける」と「あまり影響は無い」を合わせて90%である。

影響を受けるのは車両販売で、整備(車検・一般整備)には影響は無いとの判断であるが、今後、この緊急事態が継続するのであれば「どの程度の影響が出るのか不明」としている。

また、タクシー、観光バス、社用の小型トラック(含むリース車両)等の稼働率が減少しており、この影響で整備需要が減少している。

### (5) 職場の感染対策(出勤人数の削減等)

33%の回答者が対応したと回答している。できる限り自動車による通勤にして、電車通勤の社員は1時間早めに帰宅させて、電車のラッシュ・アワーを避けるような対応を取っている。事務職についてはテレワークが採用されている。

ただし、整備の仕事量はそれ程、減少している分では無い中で、出勤人数・残業時間の削減は調整が難しく苦勞しているのが現状だ。

## (6) 職場の環境対策(消毒、手洗いの徹底、体温測定、マスク)

回答者の 100%が対応している。詳しくはコメント欄を参照して頂きたいが、消毒液、マスクも確保して、フロント、事務所、工場(代車・預かり車両の除菌等)で対応している。

また、従業員には不要・不急の外出禁止、感染の危険のある場所に近づかない。社内会議の中止、部品の配達など必要な来訪者以外の訪問者(商品の売り込み等)を制限している。

## (7) 困っていること、不足している物

マスク、消毒用アルコール、体温計の不足で困っているとの回答があったが少数である。

マスクについては以前、大ロットでないと購入できない時期があったが、現状では 50 枚単位で購入できるようになった(納期は遅れぎみ)。世界的なマスク不足により原材料の値上により単価は 1 枚 60 円程度である。

ただし、緊急事態が長引いた場合、今後必要になる数量の手配が出来ない事態も発生することが心配される。

## <部品流通>

輸入車部品で本国(欧州)オーダーのものは、現在、飛行機便がストップしており、船便で運ぶしかないが、それだと 2 ヶ月は掛かるという。そのためバックオーダーの納期が未定になっている。

国産車部品は納期が遅れぎみではあるが、今のところは大丈夫のようだ。

部品商においても時短(残業禁止等)を推進しており、定時を過ぎると電話での注文が出来なくなっている。

また、ブレーキクリーナー等の一部のケミカルの入荷が難しくなっている。

以上